

2018年3月5日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 鋤柄 直純

ジョージア国 東西ハイウェイ整備事業（フェーズ2）
（有償資金協力）
環境レビューに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2018年2月26日（月）14:00～16:34
- ・場所：JICA 本部（会議室：111 会議室）
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、殖田委員、柴田委員、鋤柄委員、長谷川委員
（殖田委員はメール審議にて参加）
- ・議題：ジョージア国 東西ハイウェイ整備事業（フェーズ2）に係る環境レビューについての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) 環境影響評価報告書案
 - 2) 住民移転計画案
 - 3) 環境レビュー方針案
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010年4月）

全体会合（第88回委員会）

- ・日時：2018年3月5日（月）14:30～17:22
- ・場所：JICA 本部（会議室：113 会議室）

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. FS の段階で FS レポートの添付資料として作成された「Environmental Analysis」において影響のおそれが指摘された評価項目について、EIA において適切に反映されていることを確認すること。

環境配慮

2. 伐採が予定されている IUCN レッドリスト NT 種の樹木は、周辺の森林にも広く生育しており、プロジェクト内の伐採予定地域が「重要な自然生息地または重要な森林」に当たらないことを関係機関及び現地研究者などに再度確認すること。

ステークホルダー協議・情報公開

3. ステークホルダー協議の開催通知方法、欠席者への個別訪問時の意見・要望の有無及びそれらへの対応について確認すること。
4. ステークホルダー協議の参加者及び個別訪問調査を受けた人々には社会的な弱者を含み幅広い層が十分に含まれていることを確認すること。

その他

5. 複数のモニタリング主体が予定される中、計画を適切に反映したモニタリングフォームで一元的な報告を行うよう実施機関と合意すること。
6. モニタリング計画を修正した場合は、モニタリングフォームも改定し、JICA に報告するように実施機関と合意すること。
7. 本工区および隣接する工区については、実施機関が同じで工事期間も近いいため、一貫した環境管理が行われることが望ましい。そのため、環境管理計画・環境モニタリング計画及び環境モニタリング結果について実施機関の各担当間で情報共有を密にするとともに、各工区で生じた課題やグッドプラクティスについて実施機関から各工区の施行監理コンサルタントへの情報共有に努める様、実施機関に申し入れること。

以上